

## プログラム・ノート

沼野雄司

武満徹(1930～96)の最初期の作品としては『2つのレント』(1950)が有名だが、彼が没したあとになって、10代のころのピアノ曲がいくつか発掘された。1948年に書かれた「アンダンテ」(『2つのメロディ』の第1曲)もそのうちのひとつ。終戦ほどなくして作曲をはじめた17歳の少年の姿を彷彿とさせるような、素朴な音の連なりではあるのだが、しかし、すでにしてその不思議な曲想は、時として日本情緒を、時としてメシアン的な鎮静をみせており、この作曲家のルーツを雄弁に示している。

一方、40代の武満の手によるのが『カトレーンII』(1977)である。室内楽と管弦楽のために書かれた『カトレーン』(1975)から、室内楽部分を抽出して整えた作品。タイトルは「四行詩」をあらわしており、実際、曲の構造では「4」という数が大きな意味を持つ。武満は、ここでメシアンの『世の終わりのための四重奏曲』と全く同じ編成を用いながら、短く繊細な息遣い、パッチワークを避けてなめらかにグラデーションをなす音群の変化など、自らの個性を巧みに埋め込んだ。4人の独奏者はそれぞれの確固たる世界を保ちつつも、不思議な調和をみせる。

武満の精神的な師といえるオリヴィエ・メシアン(1908～92)が作曲した『世の終わりのための四重奏曲』は、ヴァイオリン、クラリネット、チェロ、ピアノという特異な編成の四重奏曲。第二次大戦中の1941年に作曲され、捕虜収容所の中で初演されたというエピソードで知られる。「ヨハネ黙示録」から靈感を得たという8つの楽章からなる大作だが、とりわけ全楽器がユニゾンで駆け回る第6曲「7つのトランペットのための狂乱の踊り」は、その激しさにおいて全体の白眉を成したあと、イエスの不滅への賛歌をうたう第8曲で天国的な平穏へと到達する。

イーゴリ・ストラヴィンスキー(1882～1971)の組曲『兵士の物語』(1919)は、第一次大戦中の1918年に作曲された同名の音楽劇のピアノ・トリオ組曲版。音楽劇は、一人の兵士が小川のふちでヴァイオリンを弾いていると悪魔が登場し、ヴァイオリンと予言の書を取り替えようともちかける……といった民話風の物語だが、「欲を出さずに幸せを追求せよ」というその教訓は、悲惨な大戦という時期を色濃く反映していよう。鋭いオスティナートを含みリズムに満ちたその奇妙な響きは、20世紀音楽の中でも特殊な光を放つものだ。

ストラヴィンスキーは1959年来日した際、武満徹の『弦楽のためのレクイエム』を「実にきびしい音楽だ」と評している。武満とストラヴィンスキーの音楽にはほとんど接点は感じられないが、しかし徒手空拳で自分の音を掴もうとしていた若い作曲家の気迫が、大家の心を動かしたのだろう。一方、『レクイエム』から30余年を経た1993年に作曲された『ビトゥーン・タイズ』は、きびしさというよりは、艶やかさと流麗さが全面的に展開された音楽。海(SEA=ミブーミーラ)のモチーフを中心にしながら、どの一瞬をとっても、陶酔的な響きが聴き手を包み込む悦楽は、晩年の武満がたどりついた境地を示している。その意味において、1984年の『オリオン』は、初期の「きびしさ」と後期の「艶やかさ」のはざまにある独奏曲といえそうだ。チェロの微分音やポルタメントの効果と、ピアノ・パートの音程との微妙な重なり具合が、冷たく光る冬の星座の淡く繊細な色彩を醸し出している。

およそ音楽史の中で、まったく誰にも似ていない曲ばかりを書き続けたのが、アメリカのチャールズ・アイヴズ(1874~1954)である。**ヴァイオリン、クラリネット、ピアノのためのラルゴ**は、彼が1901年に書いたヴァイオリン・ソナタの第2楽章(その後破棄)を、おそらくは1934年頃にクラリネットを加えた編成に書き直した作品。ピアノの反復音型から、ヴァイオリンがふわりと浮かび上がり、やがてそこにクラリネットが加わると、静謐だが動的、懐かしくもどこか虚しい、なんとも不思議な音の光景が誕生する。

**ピアノ三重奏曲第2番 ホ短調 作品67**は、ソ連の作曲家ドミトリー・ショスタコーヴィチ(1906~75)が第二次世界大戦中の1944年に書いた作品。盟友ソレルチンスキー追悼のための音楽だというのが、その表現の深みは彼の室内楽でも一、二をあらそうものだろう。**第1楽章**は、チェロの頼りなげな高音ではじまる。ヴァイオリンが低音部を支えるという秀逸なアイデアに加えて、カノン構造が独特の味わいを音楽に与えている。熱狂的なスケルツォの**第2楽章**、そしてピアノの絶望的な和音が循環する**第3楽章**を経て、休みなしで長大な**第4楽章**へ。ユダヤ風の主題を中心にしながらも、全編にわたって皮肉、絶望、哀悼が交差する曲想は圧巻としか言いようがないものの、最後は急速に力を失い、消え入るように音楽を閉じる。